

**第18回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会**

# **情報提供・相談支援部会**

2022年5月26日（木） 13:00～15:00

オンライン会議システムを利用

# 本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省 健康局 がん疾病対策課より挨拶
3. 本日の概要
4. がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書についてのご報告
5. 都道府県がん診療連携協議会における情報集約や運営体制の事例共有
6. がんと診断されて間もない人への情報資材の活用について

# 本日の内容

**7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について**

**8. その他**

・連絡事項

・オブザーバーからのコメント

**9. 閉会の挨拶**

**※部会終了後**

**「地域相談支援フォーラム報告会」(ご参加任意) ➡資料4をご準備ください**

# 本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省 健康局 がん疾病対策課より挨拶
3. 本日の概要
4. **がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書についてのご報告**
5. 都道府県がん診療連携協議会における情報集約や運営体制の事例共有
6. がんと診断されて間もない人への情報資材の活用について

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会

# 次期基本計画および整備指針への提案 に向けての検討ワーキンググループ

検討結果、提案内容のご報告

# 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

(設置)

平成24年11月27日より施行

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的な向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

# ワーキンググループの開催経緯・概要

- 次期基本計画および整備指針に向けての提案を作成するワーキンググループ（WG）を設置することが第17回部会で承認された。
- 部会委員よりWGメンバーを募り、2021年12月～2022年2月にかけて計3回WGを開催した。
- **各種調査（部会アンケート・患者体験調査・拠点病院アンケート等）から見えてきた課題、またWGメンバーが日常臨床の中で感じる課題等について議論し、対応策の検討を行った。**その結果を提案書として取りまとめた。

# 情報提供・相談支援部会 WGメンバー (敬称略)

(2022年12月24日開始時点)

川崎 浩二 (★WG長)	長崎大学病院	地域医療連携センター センター長/医師
山内 智香子 (☆副WG長)	滋賀県立総合病院	放射線治療科 科長/医師
鈴木 克典	山形県立中央病院	消化器内科 診療部長・副院長/医師
渡辺 恵	群馬大学医学部附属病院	がん相談支援センター/看護師
花出 正美	がん研究会有明病院	がん相談支援センター センター長/看護師
岡村 理	滋賀県立総合病院	がん相談支援センター/社会福祉士
池山 晴人	大阪国際がんセンター	がん相談支援センター センター長/社会福祉士
増田 昌人	琉球大学病院	がんセンター長/医師

# 本WGの目的

※初回WG開始時に部会事務局より説明

## 次期基本計画および整備指針に向け、 情報提供・相談支援に関わる事項についての提案を取りまとめる

(2021年11月26日開催の第17回情報提供・相談支援部会にてWGの設置が承認)

- アンケート結果（第17回部会事前アンケート、患者体験調査等）をもとに、「**がん患者・家族から今何が求められているか**」「**課題に対して何ができるか・何が足りないか**」を議論する。
- 日頃のがん患者家族への対応、がん相談支援センターの状況を鑑みて、特に提案書に含めるべきと考える点について議論し、まとめる。
- がん相談支援センター相談員ができること、**病院全体として取り組むべきこと、より大きな単位（都道府県、国等）で取り組むべきこと**など、いろいろな角度からの意見を出す。

# 提案書作成の経過

日付	実施事項	備考
2021年 12月24日	<b>第1回WG開催：</b> <b>各種アンケート結果をふまえ、特に提案書に含めたほうが良いと思うことについて意見出し</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん相談支援センターの周知</li> <li>相談対応の質を維持していくために必要な人員配置、連携協力体制、教育研修</li> <li>整備指針の構成 等について望まれるあり方を議論</li> </ul>
2022年 1月12日	<b>第2回WG開催：</b> <b>部会アンケートで上がった課題（患者・家族の抱える課題、相談支援センターで抱えている課題）への対策を中心に議論</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部会作成のPDCAチェックリストや、厚生労働省の「がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ」であげられている見直しの論点のうち相談支援に関連するもの（例：小児がん患者の長期フォローアップ、免疫療法）等も参照し、幅広い観点から議論</li> </ul>
2月7日	<b>第3回WG開催：</b> <b>事務局作成の提案書案と参考資料への修正意見出し</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案書は簡潔に、詳細は参考資料にて記載する方向で検討</li> <li>参考資料1：目標・行動指針・目標達成状況測定指標</li> <li>参考資料2：「提案」の背景となっている課題と対策</li> </ul>
2月9日 ～2月10日	提案書案と参考資料を最終確認 (WGのMLにて)	
2月11日 ～2月23日	提案書案と参考資料についての 意見収集（部会委員MLにて）	
2月28日	提案書確定版を親会へ提出	部会委員MLでいただいた意見を反映の上

# 提案書のポイント

- 拠点病院に設置されたがん相談支援センターは、すべての患者、家族、地域住民が利用できるがんに関する**情報提供拠点**としての役割を担っている。
- がん患者や家族等の心配・悩みの軽減、安心して暮らせる社会の構築に貢献するため、**下記に示すような目標と、それらに対応した行動指針・指標を整備していくことが重要**であると考えられる。

## ＜**拠点病院における**相談支援と情報提供機能の充実を目指す目標＞

1. がん診療連携拠点病院としてすべてのスタッフが、患者や家族等の不安や困りごとに気づき、必要な情報提供や支援を行い、必要時には、がん相談支援センターにつなげられるようになることを目指す。
2. 患者や家族等のがんによる不安や困りごとに適切に対応できるよう相談支援の場を利用しやすくするとともに、適切な支援につながることを目指す。
3. 患者や家族などの相談者が安心して利用できるよう、公平で、中立な相談の場を確保し、患者や家族などの相談者が、科学的根拠に基づく信頼できる情報等をもとに、（その人なりの）意思決定ができる体制を整備する。
4. 質の高い相談支援を提供する体制を整備する。
5. がんになっても安心して暮らせるよう、地域の関係者らと協力して、社会にがんに関する適切な理解を促すことを目指す。

# 提案書のポイント

- これらの目標が達成されるためには、がん相談支援センターだけでなく、**より大きな組織（行政、都道府県がん診療連携協議会、拠点病院等）単位での対応も重要になる**ことから、相談支援や情報提供に関する提案案を対象別に記載した。
- **都道府県がん診療連携協議会の情報集約機能や役割分担・連携構築の議論を主導する機能**、また**患者団体と拠点病院の間をつなぐコーディネート機能**等を強化することが必要である。
- 拠点病院では、**病院をあげて、患者家族支援体制を整備することや診断初期の患者に必要な情報を確実に伝える体制を整備**することが必要である。また、がん相談支援センターで提供される支援の質を担保するため、整備指針上での**人員配置要件や相談員の研修修了要件の見直し**が必要である。

参考：16の提案内容と  
その背景となっている課題

# 1. 都道府県がん診療連携協議会が果たすべき役割について (都道府県内の情報集約機能の強化)

## 【提案 1】

都道府県協議会の情報集約・公開・更新の役割を強化し、行政と協力の下、都道府県内全ての拠点病院が、病院をあげて診療等の対応状況について情報の集約に協力する仕組みを作ることが必要である。

## 【提案の背景・課題】

- がん相談支援センターの業務に必要な情報は多岐にわたる。
- 時事変化する情報も多く、相談員レベルでは収集困難な情報も含まれる。

# 1. 都道府県がん診療連携協議会が果たすべき役割について (都道府県内の役割分担・連携構築機能の強化)

## 【提案2】

症例が少ない相談（小児・AYA、希少がん等）の対応や情報提供について、都道府県協議会主導の下で役割分担や連携構築についての議論を進め、情報公開することが求められる。

## 【提案の背景・課題】

- 症例が少なく知識・対応経験が蓄積されにくい相談に関して、対応に苦慮している相談員が多い。
- 全ての拠点病院やがん相談支援センターで一律に対応することは困難である。

# 1. 都道府県がん診療連携協議会が果たすべき役割について (患者団体と拠点病院をつなぐコーディネート機能の強化)

## 【提案3】

ピアサポーター・患者支援団体と各拠点病院を円滑につなぐため、各拠点病院ではなく、都道府県単位の取り組みとして都道府県協議会等がコーディネート機能を担うことが求められる。

## 【提案の背景・課題】

- 複数の患者支援団体、ピアサポーターと個別調整を行い、その活動を支援するには、相当な時間と労力を要する。通常の相談業務のみでも多忙ながん相談支援センターにとってその負担は大きく、より効率的な連携のあり方が求められる。
- オンラインサロンを開催する施設は増加している。一方、対面形式のサロンを望む声も根強く、施設によってはコロナ警戒度に応じて対面形式のサロンを開催している。開催状況は流動的であり、同一県内のがん相談支援センター間であっても情報を把握しづらい現状がある。

# 1. 都道府県がん診療連携協議会が果たすべき役割について (一般の方向けがん情報周知機能の強化)

## 【提案4】

地域住民へ向けた正しいがんの知識の周知については、**都道府県協議会主導の下で行政機関等との協議・調整**を行うことで、個々の機関での調整の負担を低減させることが求められる。

## 【提案の背景・課題】

- がんを意識することなく生活している一般の方向けの周知は重要である。
- 学校教育を受けている世代への周知は、がん教育により進んでいるが、その後の社会人向け周知が十分にできていない。
- コロナ禍で対面形式のイベント（市民公開講座等）が中止され、周知機会の減少につながっている。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (診断後早期に知るべき情報を確実に伝えるための体制整備)

### 【提案5】

診断後早期に知るべき情報を確実に伝えるための体制整備については、一部門や一職種のみでの対応は困難であり、**病院をあげての協力、役割分担と連携体制の構築**が必要である。

### 【提案の背景・課題】

- 就労・セカンドオピニオン・妊孕性温存に関する情報等、診断と同時に患者に伝えられるべき情報が十分伝わっていないことが患者体験調査において指摘されている。
- 科学的根拠の不確かな治療を選択してしまう患者の存在や、ACPや緩和ケアの知識が一般にはあまり知られていない等、治療選択や意思決定に影響を及ぼす課題も生じている。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (病院全体で患者・家族支援に取り組む体制の整備)

### 【提案6】

苦痛や困難を抱える患者・家族を支援につなぐために、病院をあげてスクリーニングと患者・家族支援に取り組むこと、がん診療に携わる院内全職員が、時事変化するがん対策に関わる支援情報を学ぶ機会（院内教育等）を年1回以上設けることについて整備指針に明記することが必要である。

### 【提案の背景・課題】

- 診断や治療の経過とともに患者・家族の抱える苦痛や困難は変化する。
- コロナ禍で、対面して話す機会が制限され、これまで以上に患者・家族・医療者間の意思疎通や情報共有が困難になっている。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (がん相談支援センター周知体制の整備/医療者向け)

### 【提案7】

がん相談支援センターの利用促進のために、**病院管理者を含むすべての医療者が**、がん相談をだれでも安心して利用できるよう、**がん相談支援センターの理念や基本姿勢、対応内容を知ることが必要**であり、**医療者がこれらを学ぶ機会（院内教育等）を年1回以上に設けることについて整備指針に明記**することが必要である。

### 【提案の背景・課題】

- 院内にがん相談支援センターがあることを知っていても、その役割や活動内容は知らないという医療者が多い。
- このことが、患者・家族向け周知が進まない一因となっている。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (がん相談支援センター周知体制の整備/患者・家族向け)

### 【提案8】

全ての患者や家族が、がん相談支援センターの存在（場所・連絡先・どのような相談に対応可能か）を認識できるよう、診断後早期にがん相談支援センターを紹介する体制を整備することが求められる。

そのためには「主治医が」利用を勧めることができる体制について、病院をあげて整備することの重要性が整備指針に記載される必要がある。

### 【提案の背景・課題】

- がん相談支援センターの認知度は依然として低い。
- また、コロナ禍での面会・来院制限の影響により、家族の不安を拾い上げる場がほぼないことが問題となっている。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (人材配置の充実/相談員の増員・複数職種配置)

### 【提案9】

現状のがん相談支援センターの業務量の増加・業務内容の専門化、加えて相談対応の質の担保・持続可能性の観点から、

都道府県拠点病院および地域拠点病院（高度型）では専従3人以上、地域拠点病院（除く高度型）では専従2人と専任1人以上、地域がん診療病院では専従2人以上の相談員を配置すること。

多様な業務に対応できる体制を整える観点から、相談員のうち1名は看護師、もう1名は社会福祉士・精神保健福祉士の資格保有者としてを整備指針に明記することが必要である。

### 【提案の背景・課題】

- 整備指針改定のたび、がん相談支援センターの業務は追加され、対応すべき範囲は多岐にわたる。相談内容の複雑化、他領域の専門家・専門機関との連携を要する困難事例の増加により、対応に時間を要する相談も増えている。
- 一方、人材配置に関する基準はがん相談支援センター設立当初のままである。相談員が一職種のみでの配置であることにより、多様な相談に対応できていないという施設も多い。また、異動が頻回に生じ、現行の1.5人体制では知識や経験の継承ができないという課題も生じている。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (人材配置の充実/医師の配置)

### 【提案10】

専門性が高い相談内容、医療的判断を伴う内容に適切に対応するため、がん診療に関わる診療科の医師（兼任可）を1名配置することを整備指針に明記することが必要である。

病院長を先頭に、がん診療に関わる全診療科の医師が協力する体制を構築することも併せて整備指針に記載する必要がある。

### 【提案の背景・課題】

がん相談支援センターに寄せられる相談の中には、専門性が高い内容、医療的判断を伴う内容も含まれており、対応に苦慮している相談員が多い。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (人材配置の充実/事務職の配置)

### 【提案 1 1】

相談員が相談員でなければできない業務に専念できるように、都道府県拠点病院および地域拠点病院（高度型）では2人以上、地域拠点病院（除く高度型）および地域がん診療病院では1人以上の事務職を配置すること。

がん相談支援センターの上部組織（がん診療センター等）に配置されている事務職が、がん相談支援センターの事務を兼務する形を認める。

がん診療センター等との兼任でない場合には、専従であることが望ましい。

WEB会議システムの操作に慣れている事務を配置することを整備指針に明記することが必要である。

### 【提案の背景・課題】

- 相談業務に付随して発生する事務業務も多く、相談員が相談業務の傍らで事務作業を並行して行わざるを得ないという状況が発生している。
- 特に都道府県拠点病院は各県内の部会運営や研修企画等で主導的な役割を担う必要があり、事務業務の負荷は膨大な量となっている。

## 2. 拠点病院が果たすべき役割について (相談の質を担保するための機会提供や環境整備)

### 【提案12】

がん相談支援センターで提供する支援の質を担保するため、相談員の研修修了要件を定期的な知識更新を要する形に変更すること、また対応の質の向上につなげるため正確な情報支援や相談対応のモニタリングを行うために必要となる資材（診療ガイドライン、相談対応を録音するための機材等）購入の必要性まで具体的に整備指針に明記されることが必要である。

### 【提案の背景・課題】

- 質を担保するために、最新情報の定期学習、相談対応に用いる情報の整備、相談対応のモニタリングと改善活動等が必要だが、これらができない状況にある相談員が多い。
- 背景として、病院の理解が得られず勤務扱いにならない、通常の相談業務やそれ以外にも求められる役割が多数あり多忙で時間捻出が困難等の理由がある。

### 3. 国の都道府県拠点病院連絡協議会の役割について

#### 【提案13】

国の都道府県拠点病院連絡協議会で**情報や連携構築すべき範囲を検討し、そこでコンセンサスを得たものを随時各都道府県協議会や各拠点病院において情報集約・連携構築し、患者家族向けに情報提供**することで、国内でのがん相談支援や情報提供の水準をあげつつ、社会状況に応じた相談支援や情報提供に柔軟かつ迅速につなげる等の取り組みが必要である。

#### 【提案の背景・課題】

- 都道府県によって情報集約・連携構築の状況に差がある。
- 診断後早期に患者・家族に伝えるよう配慮している情報も各医師や拠点病院間での差があると考えられる。
- また、情報集約・連携構築すべき範囲や、伝えるべき情報の範囲は、がん医療や社会状況により変わっていくことが考えられる。

## 4. 整備指針の構成について (ロジックモデルを活用した整備指針の構成)

### 【提案14】

がん対策の目標に即して拠点病院の体制整備を行うためには、情報提供・相談支援で何を目指し（目的・目標）、そのために何をするか（整備する体制や実施事項）や達成状況の測定（評価指標）の必要性が、整備指針に明確に示される必要がある。

### 【提案の背景・課題】

- 現在の整備指針は、整えるべき体制、実施すべき業務等、形式的な内容が中心。
- 目的・目標や評価指標が明確でないため、体制整備が実質的に進んでいないという状況も。
- 二次医療圏のがん医療や情報提供・相談支援に責任を持つという拠点病院の理念・役割が、拠点病院内の職員に十分浸透していない。

## 4. 整備指針の構成について (都道府県協議会に関する事項の記載方法)

### 【提案15】

都道府県協議会が果たすべき役割がますます重要になっていることから、整備指針上の都道府県協議会に関する事項（果たすべき役割、取り組むべき事項、協議会構成員の責務等）については、都道府県拠点病院の指定要件とは別建てで、明確に記載される必要がある。

### 【提案の背景・課題】

- 現行の整備指針では、都道府県拠点病院の指定要件の中に、「都道府県協議会の設置」とそこで取り組むべき具体的事項が挙げられている。
- 協議会構成員である都道府県拠点病院以外の拠点病院所属者の目に留まりにくい。

## 5. その他、がん対策推進基本計画に関わる事項

### 【提案16】

その他、基本計画に関わる事項として、拠点病院の整備をはじめとする**医療の範囲では対応が困難なもの**も多い。

法務をはじめとする他分野との協働や社会教育分野等の連携も必要となるものも多く、**他分野との連携も想定において、相談支援や情報提供の充実**が図られる必要がある。

拠点病院として、これら解決が難しい課題が起きている状況の**情報を集約し、都道府県や国の協議会等を通して速やかに国の専門委員会等とも共有をはかる**ことが求められる。

### 【提案の背景・課題】

- 病気や治療により就労が中断された場合に収入が補填される制度は限られており、医療費負担増に耐えられない世帯では生活が維持できない。
- 社会サービスの利用に様々な制約があり、最も支援が必要な人が利用できない状況もある。
- コロナ禍においては、就労に配慮が必要ながん患者が職を得にくい状況がより深刻化している。
- 治療・医療には限界があることや、重篤な病気になったときにその人自身との価値観に照らして選択していくことの重要性についての一般向け普及啓発が不十分。

# 本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省 健康局 がん疾病対策課より挨拶
3. 本日の概要
4. がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書についてのご報告
5. **都道府県がん診療連携協議会における情報集約や運営体制の事例共有**
6. がんと診断されて間もない人への情報資材の活用について

令和4年5月26日（木）

第18回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会  
情報提供・相談支援部会

# 島根県がんピアサポーター相談会 運営・実施報告

島根大学医学部附属病院

がん患者・家族サポートセンター（がん相談支援センター）

がん専門相談員 榎原貴子

## 島根県がんピアサポーター事業の経緯

平成23年～25年

島根県より島根県立大学へ  
「島根県がん相談員等資質向上事業」として委託  
委託内容：

がんピアサポーター養成プログラム確立

がんピアサポーター養成研修の実施

- ・平成24年度 第1期養成研修実施  
(県東部地域在住のがん治療経験者)
- ・平成25年度 第2期養成研修実施  
(県西部地域在住のがん治療経験者)

平成26年度～

島根県より島根大学医学部附属病院へ  
「がん患者・家族サポートセンター」事業を委託

委託内容：

- ・島根県の地域統括相談支援センターとして
- ・島根県がんピアサポーター事業  
がんピアサポーター相談会運営・実施  
フォローアップ研修企画・運営  
養成研修企画・運営

## がんピアサポーター相談会の開催に向けて

### 島根県がん相談員実務担当者会での話し合い

病院での場所の確保

広報は？

「ピアサポーター」って何をしてもらおうの？

報酬は？

責任の所在は？

相談員が同席すべき？

そもそも、ニーズがあるのか？

病院内サロンとのすみ分けは？

相談員の

不安

## 拠点病院がん相談支援センターが担ったこと

- ・相談会開催の日程調整・場所の確保
- ・広報の協力（チラシ掲示・広報誌への掲載等・医療スタッフへの周知）
- ・相談会開催時のサポート
- ・相談会終了後の「振り返り」の同席

## がん患者・家族サポートセンターが担ったこと

- ・病院への開催依頼文書の作成
- ・ボランティア保険の準備
- ・ピアサポーターの相談窓口
- ・開催日に合わせたピアサポーターの調整
- ・交通費の支給事務 ・チラシ作成
- ・拠点病院以外での開催時のサポート
- ・「実務担当者会」での話し合い

協力が不可欠

# ピアサポーター・県・がん相談員実務担当者会共催での意見交換会の実施

「拠点病院だけでなく もっと身近な場所でも開催できれば」

➡ 県指定の情報提供促進病院でも開催協力の働きかけ

「不定期開催ではなく、定期的に行けると、より知ってもらえるのでは」

➡ 定期（毎月15日、毎月月末など）開催が定着

「土日開催をすれば、若い患者さんが参加しやすいのでは？」

➡ 毎月15日は土日も開催

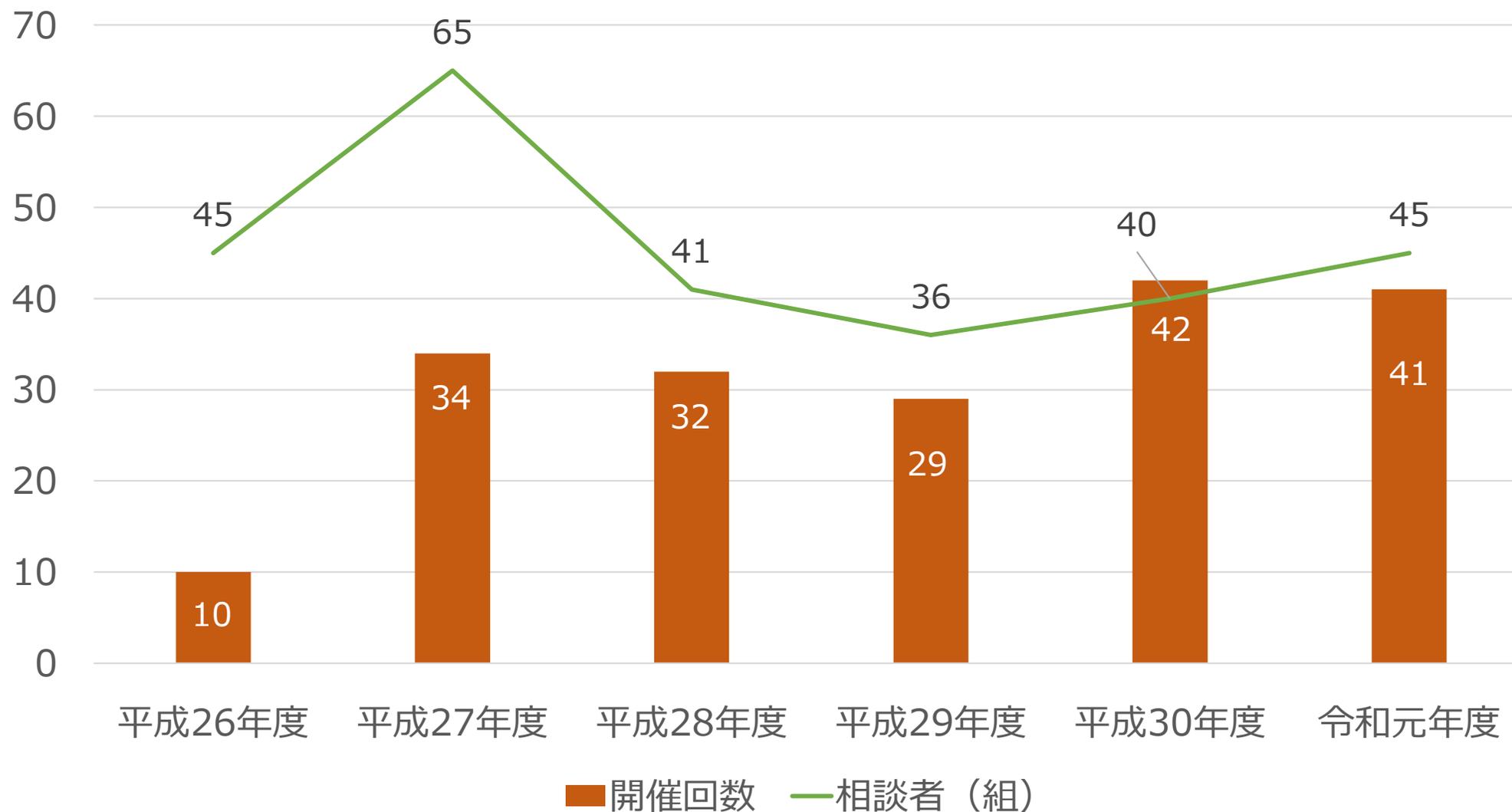
「自分たちでも広報をしていきたい」

➡ 相談会開催時、市民公開講座等でのパネル展示  
ピアサポーターの方も一緒に病院ホールでティッシュ配り

「サロンとピアサポーター相談会同時に開催しては？」

➡ サロン担当者との協力

(組) ピアサポーター相談会開催回数と相談者（組）の推移



## 課題

- ・コロナ禍で病院での対面による開催ができない
- ・フォローアップ研修の開催ができない  
(オンライン対応が難しいピアポーターが一定数)
- ・継続した質の担保



新たにがんピアサポーター養成へ

募集対象者の設定の検討が必要

今後も県と実務担当者会で話し合いを継続

# 愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会の とりくみ

愛媛県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん相談支援専門部会部会長  
灘野 成人（四国がんセンター）

令和4年5月26日 第18回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

情報提供・相談支援部会

# 愛媛県の がん診療連携拠点病院とがん診療連携推進病院

## 1. えひめのがん医療

愛媛県では、『温かみのあるがん対策』をスローガンに、2010年にがん対策推進条例が制定されました。『がんになってもお互いに支え合って安心して暮らしていける愛媛』を目指します。

### ○がん診療連携拠点病院・推進病院

#### がん診療連携拠点病院

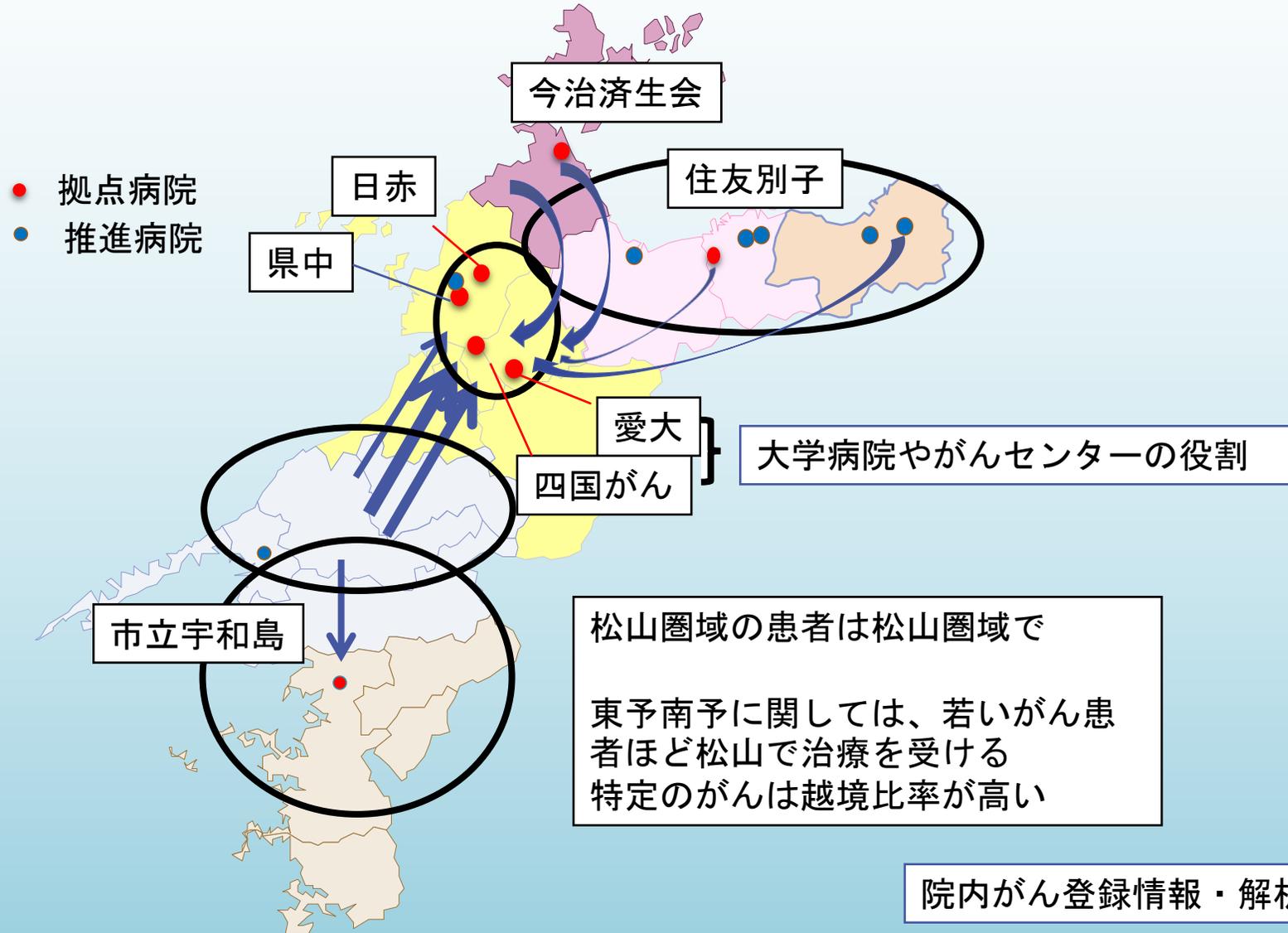
全国どこでも質の高いがん医療を提供しようと国が指定した病院です。専門的ながん医療の提供や患者さんに対する相談支援・情報提供などを行っています。

#### がん診療連携推進病院

拠点病院と連携しながら専門的ながん医療の提供や地域のがん診療の連携協力体制の構築などの役割を担っています。愛媛県が独自に指定した病院です。



# 愛媛県のがん患者の移動



# 愛媛県がん診療連携協議会

役員会

愛媛県がん診療連携拠点病院の院長  
 愛媛県地域がん診療連携拠点病院の院長  
 愛媛県がん診療連携推進病院の院長  
 緩和ケア病棟を有する医療機関の院長  
 愛媛県がん対策推進委員会の会長  
 愛媛県がん診療連携協議会幹事会の幹事長  
 愛媛県保健福祉部の健康衛生局長  
 愛媛県医師会会長  
 愛媛県歯科医師会会長  
 愛媛県薬剤師会会長  
 愛媛県病院薬剤師会会長  
 愛媛県看護協会会長  
 愛媛県のがん患者会の代表者  
 その他、議長が適当と認める者

事務局

幹事会

PDCA部会

専門部会

愛媛県がん診療連携拠点病院の代表者  
 愛媛県地域がん診療連携拠点病院の代表者  
 愛媛県がん診療連携推進病院の代表者  
 愛媛県保健福祉部の代表者  
 愛媛県医師会の代表者  
 専門部会の部会長

がん地域連携  
専門部会

緩和ケア  
専門部会

がん相談支援  
専門部会

がん登録  
専門部会

がんの集学的治療  
専門部会

がん看護  
専門部会

事務局（四国がんセンター）  
 部会長 瀬野成人（四国がんセンター）  
 副部会長 羽森慎二・森山幹子（四国がんセンター）  
 実務者代表 福島美幸（四国がんセンター） 松岡誠子（済生会今治病院）

広報  
ワーキング

リーダー 大西明子  
（四国がんセンター）

災害  
ワーキング

リーダー 関木裕美  
（四国がんセンター）

（休止）  
がんサロン担当者  
交流・検討ワーキング

がん相談員研修  
ワーキング

リーダー 篠原暁  
（四国がんセンター）

チェックリスト  
ワーキング

リーダー 松岡誠子  
（済生会今治病院）

# がん相談支援専門部会メンバー

部会長 医師1人

副部会長 医師2人

実務者代表 2人 (MSW、看護師)

各拠点病院・推進病院から実務者 数名

愛媛県庁健康増進課 係長

NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 代表者

事務局 四国がんセンター

# 愛媛県がん対策推進委員会

愛媛県は愛媛県がん対策推進条例に基づき、本県のがん対策の推進に関する基本的かつ総合的な政策及び重要事項の審議等を行うため、「愛媛県がん対策推進委員会」を設置している。  
また、重点的に取組む分野である「在宅緩和ケア」「がん相談支援」の専門部会も設置している。

## 愛媛県がん相談支援推進協議会

がん相談支援専門部会の活動報告や当院の患者・家族総合支援センター報告を行っている。

協議会の結果はがん対策推進委員会に報告されて、県のがん対策推進計画の審議に使用されている。

専門部会から部会長など4名参加している。

# 広報WG



- ・がんサポートブックえひめ第4版  
大幅改定2022年度春発行予定



- ・がんゲノム医療
- ・妊孕性、愛媛県がん  
生殖医療ネットワーク
- ・外見ケア用品の展示
- ・相談実施施設

- ・2022年度  
「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」（冊子）と  
このブックの活用方法について議論予定  
医師から直接手渡すことを目標

# がんに関する相談窓口を 知っていますか？ 「がん相談支援センター」

ひとりで悩まず  
相談してね

話をきいて  
ほしい

治療費や  
生活費の  
心配

治療と仕事  
の両立は？

治療は  
どこで受け  
られるの？

セカンド  
オピニオン  
とは？



相談料は無料です

秘密は厳守します 匿名での相談も可能です

看護師やソーシャルワーカーなどがご相談をお受けします

がん相談  
支援センターは  
ここにあります！

とあなたでもご利用できます



✦記載している病院にかかっているなくても相談可能です✦

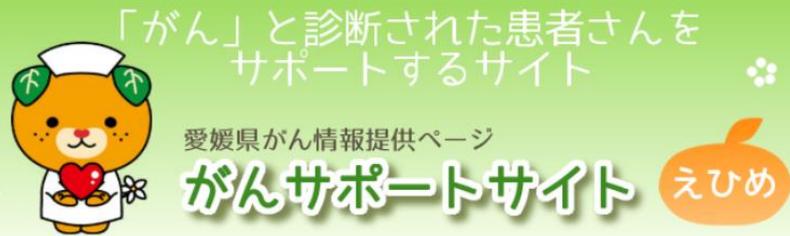
中予	四国がんセンター	がん相談支援センター	(直通)089-999-1114
	愛媛県立中央病院	地域医療連携室 がん相談支援センター	(直通)089-987-6270
	松山赤十字病院	がん相談支援センター	(直通)089-926-9516
	愛媛大学医学部附属病院	総合診療サポートセンター	(直通)089-960-5918 089-960-5261
	松山市民病院	地域医療連携室	(直通)089-913-0081
	済生会松山病院	地域連携室 (がん相談支援センター)	(代表)089-951-6111
東予	住友別子病院	医療相談支援センター	(直通)0897-37-7133
	済生会今治病院	総合医療支援室 (がん相談支援センター)	(直通)0898-47-6048
	済生会西条病院	社会福祉課	(直通)0897-55-5392
	四国中央病院	患者相談支援室	(直通)0896-58-2118
	HITO病院	がん相談支援センター	(直通)0896-29-5320
	愛媛労災病院	がん相談ソーシャルワーカー	(代表)0897-33-6191
南予	十全総合病院	医療福祉相談支援センター	(代表)0897-33-1818
	市立宇和島病院	がん相談支援センター	(代表)0895-25-1111
	市立八幡浜総合病院	地域医療連携室	(直通)0894-24-2568

作成：愛媛県がん診療連携協議会

# 広報WG



- 当協議会主催の、がんと診断されたばかりのひとたちのための愛媛県がん情報サイト



> 初めての方へ・このサイトについて

> 新型コロナウイルスの対応について

<b>乳房</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>	<b>胃</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>	<b>大腸</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>	<b>肺</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>
<b>肝臓</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>	<b>膵臓</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>	<b>子宮頸部</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>	<b>前立腺</b> 病気を <b>知る</b> 病院を <b>探す</b>
<b>原発不明がん</b> 病気を <b>知る</b>	<b>★AYA世代(15-39歳)</b> 病気を <b>知る</b>		

## あなたを支える

> <a href="#">暮らしを支える</a> 病気や治療にともなう生活上の困りごとについて、役立つ情報やよりよく過ごすためのヒントです。	> <a href="#">がん相談支援センター</a> 病気に関する様々な悩みについて、電話や対面での相談ができる場所のご案内です。	> <a href="#">セカンドオピニオン</a> 診断や治療法について納得するために、主治医以外の医師に意見を聞く制度です。
> <a href="#">治験・臨床試験案内</a> 県内の病院で研究中の新しい治療薬や治療法についての情報をお知らせします。	> <a href="#">リンパ浮腫</a> 腕や足のむくみ（リンパ浮腫）対策のご紹介や各病院の診療体制のページです。	> <a href="#">将来子どもを望む方へ</a> 病気そのものや治療にともなう生殖器官への影響についての情報です。
> <a href="#">遺伝性腫瘍について</a> 生まれつき引き継いだ体質が強く影響して発症する腫瘍についての情報です。	> <a href="#">いたみを和らげる</a> こころとからだの緩和ケアについての情報です。	

## 新着情報

2021/12/16 [前立腺の病気を\*\*知る\*\*、前立腺の病院を\*\*探す\*\*](#)を公開しました。

2021/07/12 [乳房の病院を\*\*探す\*\*](#) [胃の病院を\*\*探す\*\*](#) [大腸の病院を\*\*探す\*\*](#) [肺の病院を\*\*探す\*\*](#) [肝臓の病院を\*\*探す\*\*](#)

2017年より、患者団体の意見を取り入れて  
がん登録専門部会と協力して当協議会が中心となり作成

# 広報WG

## ・出張相談会

えひめ・まつやま  
産業まつり  
すごいもの博



# 災害WG

- ・（毎年度初め）専門部会長発信  
➡ML連絡シミュレーション

添付

愛媛県災害時がん患者受け入れ体制調査➡  
回答返信

- ・確認ルートを各施設内で明確に  
被災地周辺地域受け入れ体制調査フォーマットを情報提供する際の準備
- ・県拠点病院が被災した場合の情報収集の方法  
四国がんセンター（中予）→済生会今治病院  
（東予）



- ・（取り決め）自然災害発生時における  
研修会等の取り扱いについて

自然災害発生時における研修会等の取り扱いについて

2022年03月  
愛媛県がん診療連携協議会  
がん相談支援専門部会

1. 対象となる災害  
台風、大雨、大雪、川の氾濫、地震などの自然災害
2. 対象となる研修会等  
がん相談支援専門部会が主催する研修会、ワーキング会議、出張相談イベント、その他の打ち合わせ会議等
3. 判断基準  
①開催地に特別警報が発令された場合は中止とする。  
②特別警報・暴風雨警報など避難勧告発令などに伴い、公共交通機関（バスや電車）が開催地の全区間完全に運行停止となった場合は中止とする。  
③以下の場合は状況を勘案して個別に判断する。  
①開催地に①以外の警報が発令されたとき。  
②開催地に台風が接近している場合。  
③開催地に直接影響する地震が前日、あるいは当日に発生し被害が出たとき。  
④参加者の移動に危険が生じる恐れがあるとき。  
⑤天候等により欠席者が多いと予測される場合。  
※WEB開催時は運営事務局設置場所を開催地とみなす。
4. 判断の時期  
① 1) 部会長が、前日 15 時の状況を見て判断する。  
2) 前日に判断が難しい場合は、部会長が当日の朝 6 時の時点で気象庁のホームページで判断する。
5. 中止の周知方法  
① 前日に中止の判断となった場合は、ワーキングのリーダーが、相談支援専門部会 ML、メールする。また、電話にて参加者に周知する。  
② 当日の判断基準に沿って中止となった場合は、ワーキングのリーダーが相談支援専門部会 ML、メールする。また、参加者が問い合わせできる窓口を設ける。  
※相談支援専門部会 ML に登録している委員は、研修会等に参加する該当者に周知する。
6. 中止後の対応  
中止した研修会の後日開催については、ワーキングにて判断する。

# がんサロン担当者交流・検討WG

- ・ 2014年～ がんサロン担当者交流・検討会  
愛媛県内がんサロンカレンダー作成  
➡以後、更新
- ・ 2017年～ ピアサポーター&がん拠点・推進病院  
合同開催  
グループワークを行い、相互理解  
困りごとや取り組みをシェア！
- ・ 2019年 町なかサロン見学会  
ピアサポーターの活動拠点を知ろう

ほとんどの病院がサロンを開催でき、  
軌道に乗ったため休止中➡コロナ禍で  
の再開について情報交換（メール）



# 相談員研修WG

## 専門部会について

がん相談支援専門部会  
セミナー・研修会

### 令和3年度

オンライン

2021年10月23日

[令和3年度 第1回愛媛県がん相談員研修会](#)  
[オンラインQA研修「積極的治療の限界を告げられたがん患者・家族の支援」](#)

### 令和2年度

オンライン

2020年11月14日

[令和2年度 第2回愛媛県がん相談員研修会](#)  
[オンラインQA研修「相談対応の質保証（QA：Quality Assurance）を学ぶ」](#)

### 令和元年度

地域相談支援フォーラムin四国  
愛媛中止

2019年6月8日

[令和元年度 第1回愛媛県がん相談員研修会](#)  
[～相談員の役割とがん患者の生活支援を考えるwith顔の見える関係作り～](#)

### 平成30年度

2018年8月18日

[平成30年度 第1回がん相談員研修会](#)  
[～顔の見える相談員連携deがん患者の生活支援を考える\(PDF:939KB\)](#)

2022年度  
地域相談支援フォーラムin四国  
愛媛開催予定

オンライン開催  
10月22日（土）午後  
テーマ「就労支援」



# チェックリストWG

2015年都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会にてチェックリストの提示があり。

2016年チェックリストWG立ち上げて活動開始。

2021年度

- ・ 評価指標を作成し、チェックリストに評価指標を加えた
- ・ チェックリストの運用変更を検討
  - グーグルフォームでの入力・集計のフォームを作成
    - ➡ 運用について 2022年度提案予定
- ・ 患者家族サロン運営や地域との連携強化について評価が下がった。
  - ➡ コロナ禍での患者支援の在り方を専門部会で検討する必要がある



**各施設で年1回のチェックリスト評価を行う。  
今後の評価結果集計の取り扱いや専門部会全体の評価方法など  
については、ワーキンググループで検討し専門部会に提案する。**



## 行政担当者や患者会との連携・協力

広報・研修会・サロンWG等開催に参加や協力をお願い



## 愛媛県拠点病院・推進病院へ全国的情報を

部会長より愛媛県がん相談支援専門部会MLに転送配信

## 四国ブロックで協力体制

◎地域フォーラム、QA研修、情報支援研修を  
4県持ち回りで協力しながら開催

◎都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センター  
四国ブロック会申し合わせ事項を作成中



# まとめ

1. 協議会は県全体に情報を発信し、行政機関や家族会との協議・調整することができていた。
2. 県内がん相談支援センターの機能強化のために、チェックリストを利用して、PDCAサイクルを回し、研修を行って、質の担保を行っている。
3. 患者・家族へ早期にがん相談支援センターを周知し、利用を促進するためには、医師から直接、情報の冊子を手渡すことが必要であるため、今年度の目標にする予定である。



ご清聴ありがとうございました。

# 本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省 健康局 がん疾病対策課より挨拶
3. 本日の概要
4. がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書についてのご報告
5. 都道府県がん診療連携協議会における情報集約や運営体制の事例共有
6. **がんと診断されて間もない人への情報資材の活用について**

# がんと診断されて間もない人への 情報提供資材（冊子）

## 作成経緯と活用方法のご案内

～医師をはじめ、すべての医療者に  
ご活用いただくために～

がんと診断された  
あなたに  
知ってほしいこと



作成・提供：

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会  
国立がん研究センターがん情報編集委員会

# 情報提供・相談支援部会として、 “診断後間もない人向けの情報資材作成”に協力していく

がん情報編集委員会より都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供相談支援部会  
に対して、

- ・がんの冊子の一つとして、相談支援センターの周知が図られる資材作成の提案

→都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供相談支援部会との**共同で資材作成**を行うこととなった。

(第15回情報提供相談支援部会 (2020年11月27日) において承認)

- 「**主治医等から**相談支援センターについて説明する等、**診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること**」(H30年7月31日 整備指針より)
- 「**拠点病院のすべての主治医(チーム)が**、すべての患者に、十分な時間をかけて、複数回以上のインフォームド・コンセント、セカンドオピニオンを得るために必要な支援、アドバンス・ケア・プランニング(意思決定支援の対応プロセス)等を行うことを通じて、**病初期から**治療終了に至るまで、患者にとって、**患者自身の意思が尊重されていることを実感できる体制**を拠点病院として確立することが必要である」

(第10回 情報提供・相談支援部会 H30年6月12日 整備指針において記載すべき事項に関する意見書 参考資料4-2  
[https://ganjoho.jp/med\\_pro/liaison\\_council/bukai/shiryo10.html](https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo10.html))

# 地域がん診療連携拠点病院の指定要件より抜粋 p 13

H30年7月31日 がん診療連携拠点病院の整備について（整備指針）より

## 4 情報の収集提供体制

### (1)がん相談支援センター

① 相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備すること。

ア 外来初診時等に**主治医等から**、がん患者及びその家族に対し、相談支援センターについて説明する等、**診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること。**

イ **地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行うこと。**また、地域の医療機関からの相談依頼があった場合に受け入れ可能な体制を整備することが望ましい。

# 作成のコンセプトと 医師による配布の意義について

情報提供・相談支援部会 検討チーム WGメンバー

山内 智香子

滋賀県立総合病院

医師／滋賀県相談支援部会長

# 動画をご覧ください。

こちらは、6月に、拠点病院のみなさまへご案内予定です。

# 冊子作成のコンセプト

とにかく「がん相談支援センター」を知ってもらおう

- ・ 寄り添うチームがいて何でも相談できる



患者に冊子を最も手に取ってほしい時期

- ・ がんの告知直後～初回治療開始（初回入院するとき）頃まで

患者が冊子を手に取る場面

- ・ 医師（医療者）から冊子を手渡される
- ・ がん相談支援センターで冊子を手にとる
- ・ 院内のリーフレットラックで冊子を手にとる
- ・ 図書館などの公共機関のリーフレットラックで冊子を手にとる
- ・ がん情報サービスWebサイトで目にする



# 冊子作成のコンセプト

## 冊子を手にとった時に想定される患者の状況

- 診断されて、動揺している（ことが多い）
- 治療や仕事、家族のことなど大切な選択や決断を迫られている（ことが多い）
- でも、まだ何も考えられない…



## どうすれば手に取って読んでももらえるか？

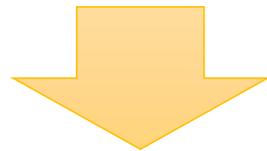
- 最も信頼できる**主治医**や担当医療者から渡す  
（置いてあるだけでは目に入らない）
- 混乱・動揺している中で読んでもらえる工夫
  - わかりやすさ：用語の吟味
  - 安心感を与える見た目の柔らかさ：イラスト・色調
  - 相談支援センターでは様々な困りごとに対応していることを示す



# 冊子利用のメリット

## 医師（医療者）にとってのメリット

- ・ 伝えたいけれど十分に伝えられない情報を補完できる
  - 標準治療について、セカンド・オピニオン（受けられること、しくみ）
  - 妊孕性（治療を始める前に伝える必要がある情報）
  - 就労支援（「仕事をすぐに辞めないで」） …等
- ・ 多職種で連携しやすくなる
  - がん相談支援センターの紹介：困った時には、だれかに相談してほしい！  
そんな場として利用できる「がん相談支援センター」をいち早く紹介でき、多職種で連携し、患者や家族に必要な情報提供やサポートができる



メリットを実感してもらえれば  
患者へ届けてくれる

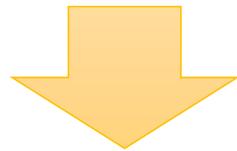
がんと診断された  
あなたに  
知ってほしいこと



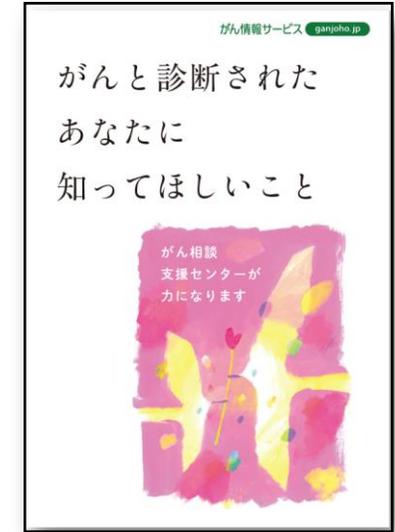
# 冊子利用のメリット

## 患者にとってのメリット

- 必要な情報を得ることができる
  - 冊子内のQRコードを利用すれば、さらに詳しい情報が得られる
  - 「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」  
+  
地域のがん情報」「がんの冊子」「わたしの療養手帳」も併せて手に取ることで、それぞれの状況に応じ必要な情報が得られる



メリットを実感してもらえれば  
医療者への信頼につながる



+



地域のがん情報



がんの冊子



わたしの療養手帳

# 「本冊子」の周知に関わるスケジュールと 関連調査研究と周知方法の共有

・冊子査読、調査にご協力をいただいている皆様、誠にありがとうございます。



## ■「本冊子」の周知・配布の開始

### ■スケジュール

■ 2022年2月：「がん情報サービス」上へ公開

■ [がん情報サービス HOME](#) > [診断と治療](#) > [がんと診断されたあなたに知ってほしいこと](#)

■ 施設内への紹介用資材（PPT）も国拠点病院サポートページに掲載予定

■ 2022年3月初旬：冊子発注システムにより「購入冊子注文開始」

■ →各施設への初回納品（5月半ば）

## ■「本冊子」の活用効果に関する調査

### ■調査内容

■ 冊子配布の有用性と活用に関する調査を行います。（厚労科研研究班協力のもと）

● 調査実施期間：2022年3月頃～5月頃

● I “医師”への周知と活用に関するアンケート・インタビュー調査（個々の医師を対象／募集終了）

● II 施設内での「本冊子の効果的な周知と活用方法」に関する調査（相談支援センターを対象／3月末まで募集中）

→ 調査結果は、秋の情報提供・相談支援部会以降で、ご報告させていただきます。

# 本日の内容

## 7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

## 8. その他

- ・連絡事項
- ・オブザーバーからのコメント

## 9. 閉会の挨拶

### ※部会終了後

地域相談支援フォーラム報告会（ご参加任意）

**相談員研修・  
国立がん研究センター認定事業について**

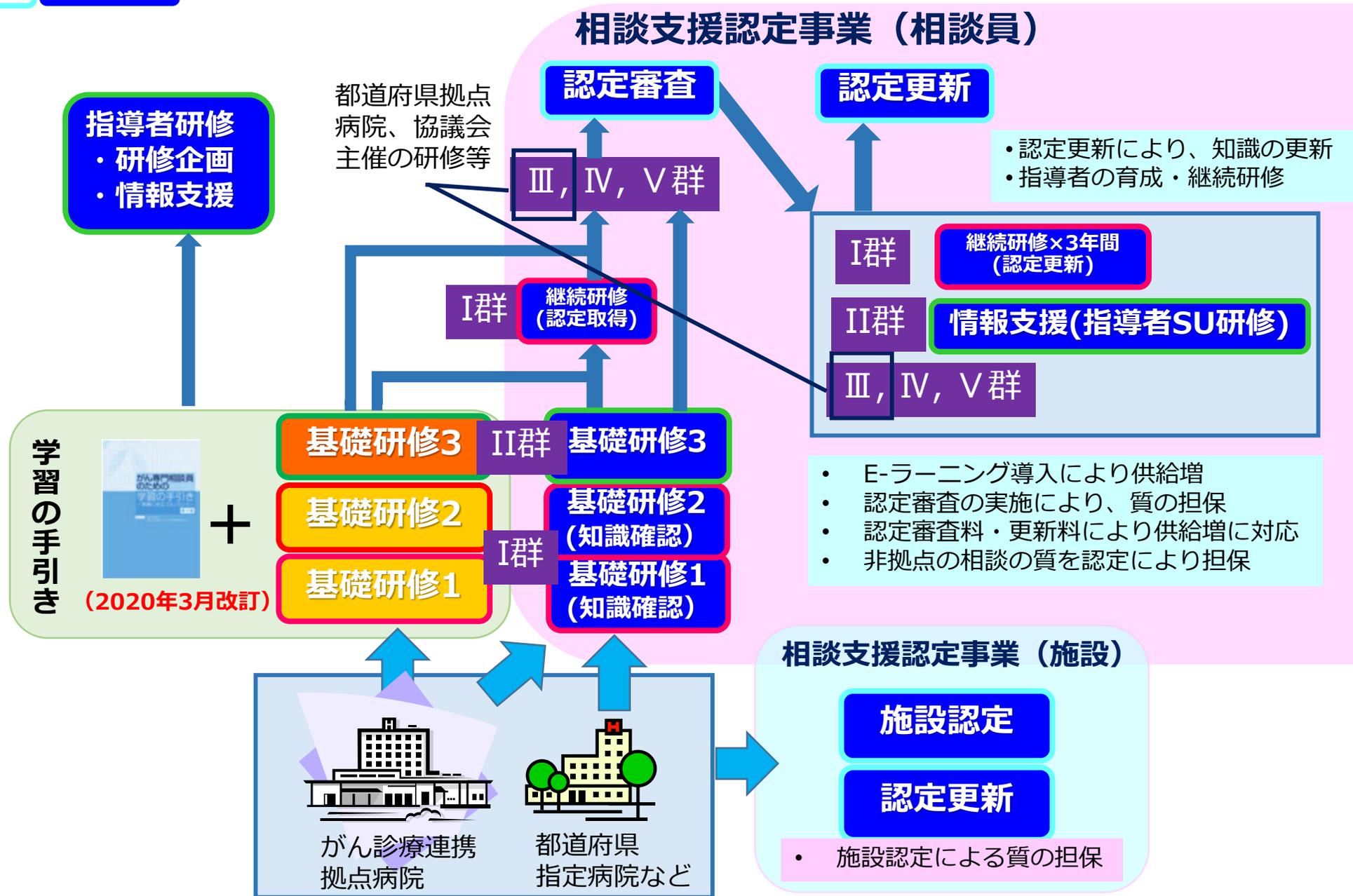
# がん相談支援センター関連のプログラム

	プログラムカテゴリ	開催主体	
		NCC	各都道府県
研修事業	基礎教育： 基礎研修 <sup>(1)(2)(3)</sup>	○	—
	←学習の手引き（相談員テキスト）	○	—
	継続教育： 継続研修（認定取得／認定更新）	○	—
	指導者養成： 指導者研修 指導者等スキルアップ研修	○	—
	アップデート研修	2022年度開催予定なし	—
	各都道府県での研修 <sup>(地域相談支援フォーラム含む)</sup>	—	○
	←講師派遣事業（～2021：QA研修 / 2022～：情報支援研修）	○	—
	←事例教材の提供（各施設への貸し出し含む）	○	—
	←研修企画コンサルテーション	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	○	—
	認定がん相談支援センター	○	—
がん相談支援センターサポート	メーリングリストの作成	○	—
	がん相談ロゴの提供	○	—
	施設別がん登録件数検索システム	○	—

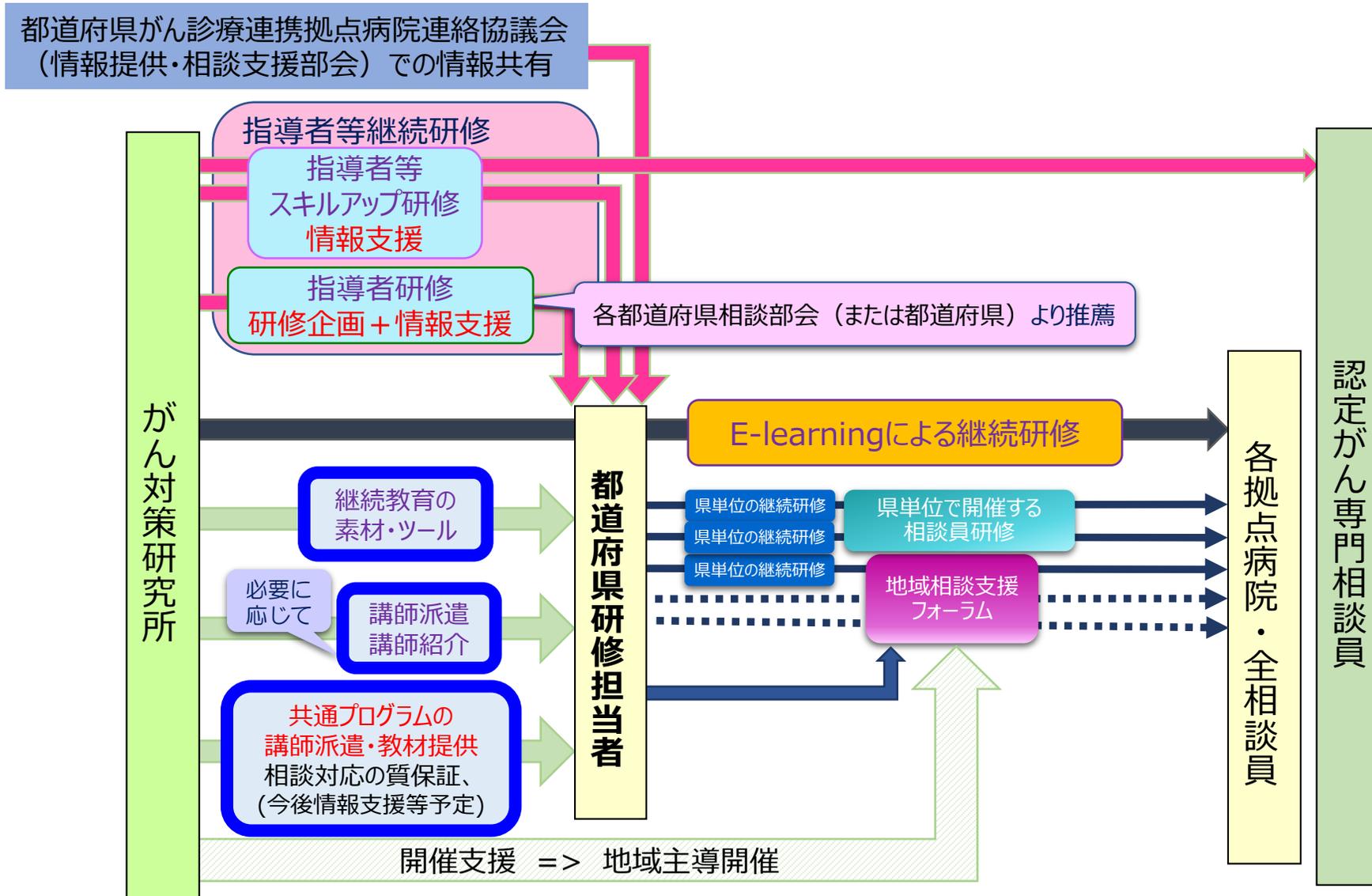
# がん相談支援センター関連のプログラム

	プログラムカテゴリ	開催主体	
		NCC	各都道府県
研修事業	基礎教育： 基礎研修 <sup>(1)(2)(3)</sup>	○	—
	←学習の手引き（相談員テキスト）	○	—
	継続教育： 継続研修（認定取得／認定更新）	○	—
	指導者養成： 指導者研修 指導者等スキルアップ研修	○	—
	アップデート研修	2022年度開催予定なし	—
	各都道府県での研修 <sup>(地域相談支援フォーラム含む)</sup>	—	○
	←講師派遣事業（～2021：QA研修 / 2022～：情報支援研修）	○	—
	←事例教材の提供（各施設への貸し出し含む）	○	—
	←研修企画コンサルテーション	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	○	—
	認定がん相談支援センター	○	—
がん相談支援センターサポート	メーリングリストの作成	○	—
	がん相談ロゴの提供	○	—
	施設別がん登録件数検索システム	○	—

# がん専門相談員の育成



# (基礎研修以降の) 継続的・系統的研修機会の場の持ち方



●全国的に展開が望まれるプログラムは、E-learning教材の公開、講師派遣・教材提供を積極的に実施

# NCCで提供する研修プログラム

形式	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	主目的
テキスト	学習の手引き(第3版)	—	全相談員が利用できる相談員の副読本 (2020年3月改訂)
E-learning	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	基礎的知識の習得
	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	基礎的知識のアップデート
	アップデート研修	—	トピック的知識の習得
集合研修	基礎研修(3)	○	対象者理解、地域のファシリテータの育成
	指導者研修	○ 都道府県拠点	地域の研修企画者の養成
	指導者等スキルアップ研修	—	全国に普及したい研修プログラムの先行提供 (「情報支援」を重点的に提供)

# 2022年度 相談員研修スケジュール①

E-learning	科目数	費用(税込)	申込期間	受講期間
基礎研修(1)(2)				
研修修了コース	21科目	無料	2月末日～8月末日	2月末日～11月末日
知識確認コース	21科目	18,150 (テキスト代込)	2月末日～8月末日	2月末日～11月末日
継続研修				
認定取得コース	29科目	16,500	5月16日～9月末日	5月16日～11月末日
認定更新コース	29科目 (必修8/選択21科目)	無料	5月16日～9月末日	5月16日～11月末日

# 2022年度 相談員研修スケジュール②

集合研修	定員	日程	費用(税抜)	申込期間	受講日	開催形式
基礎研修(3)						
国指定コース	378	2日間	無料	4月6日～12日	①7/14(木)・15(金) ②7/19(火)・20(水) ③7/21(木)・22(金) ④8/27(土)・28(日) ⑤8/29(月)・30(火)	オンライン
非拠点コース		2日間	33,000			
指導者研修						
指導者	90	4日間	33,000	4月4日～15日	前期：6/14(火)・15(水) 後期：9/29(木)・30(金)	オンライン
指導者スキルアップ研修						
相談対応の質保証を学ぶ	定員なし	1日間	5,500	7月1日～19日	9/9(金)	オンライン
情報から始まるがん相談支援	45	2日間	22,000	9月1日～15日	12/1(木)・2(金)	オンライン
情報支援・相談対応モニタリング	12	2日間	22,000	10月17日～ 11月21日	2023年 2/21(火)・22(水)	オンライン

# 基礎研修(3) ファシリテーターご推薦の御礼

- 2022年度は新しい試みとして、各都道府県の皆様に基礎(3)ファシリテーターのご推薦をお願いし、41都道府県64名のご推薦をいただきました
- 推薦者に基礎(3)ファシリテーター未経験者が多かったため、推薦者全員にお願いすることはできませんでしたが、41都道府県46名の方にご依頼させていただきました
- 2023年度も各都道府県の皆様から推薦をいただくことを考えておりますので、引き続き、ご協力いただけますと幸いです

基礎(3)ファシリテーター推薦へのご協力、  
誠にありがとうございます。  
来年度も宜しく願いいたします。

# 相談対応のモニタリングについて学ぶ研修 講師派遣事業 実施報告

	2018～21年度 講師派遣		継続開催		計
2017年度	4都道府県	(研究班)	1都道府県(福井)	12名	12名
2018年度	14都道府県	およそ361名	1都道府県(埼玉)	54名	415名
2019年度	14都道府県	およそ371名	5都道府県(栃木・埼玉・滋賀・東京・福岡)	167名	538名
2020年度	11都道府県	およそ258名	1都道府県(埼玉)	40名	298名
2021年度	4都道府県	およそ73名	8都道府県(栃木・神奈川・長崎・熊本・福岡・島根・宮城・秋田)	233名	306名
計	—	1063名	—	506名	1569名

\* 受講生：Ⅲ群報告より集計（報告未実施の都道府県除く）

**「相談対応の質保証を学ぶ（QA：Quality Assurance）研修」  
が全都道府県で開催されました。**

## 【QA研修の主な内容】

- ・がん相談支援センターで取り組むべき**品質管理**や**品質保証活動**を学ぶ。
- ・相談対応の質を評価することを目的に開発された「**がん相談対応評価表**」を用いて相談のプロセスを評価し、より**望ましい対応**や**改善点**についてディスカッションする。

# 相談対応のモニタリングについて学ぶ研修 継続開催について

今後も相談対応の質を維持し向上する機会として、  
2回目以降の「相談対応の質保証を学ぶ（QA：Quality Assurance）  
研修」をぜひご検討ください！

- 研修素材の貸し出しを行います
- 必要な場合、講師派遣（講師紹介）をおこないます（有償）  
※都道府県の状況によって、都道府県内での講師育成をお願いする場合があります

詳細はこちら（ログインIDとPWは別途連絡済）

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/qakyouzai.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/qakyouzai.html)

※各施設で「評価表」を活用したディスカッションを希望する場合の諸連絡も、上記に含めています

# 確かな医療情報を用いた相談対応について学ぶ研修 講師派遣事業についてのご案内

「信頼性の高い」「安全な」情報を見極める力、また、確かな医療情報（がん情報サービス、一般向け診療ガイドラインの解説等）を用いて患者・家族を支援する力の向上を目的とした研修を開催する都道府県に講師を派遣します。

## 【2022年度講師派遣】

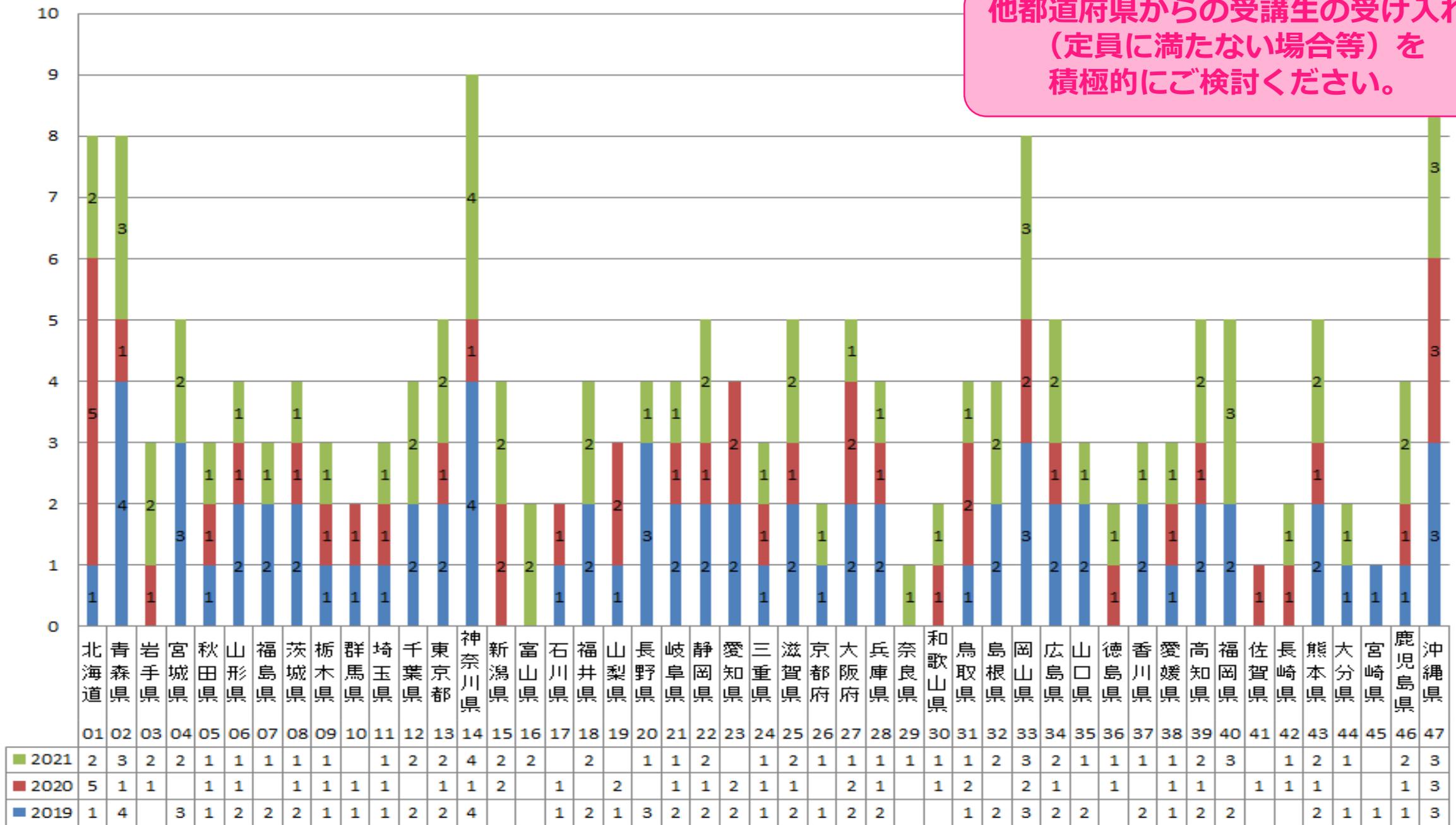
研修日時 (予定)	都道府県 (カッコ内は共同開催県)	担当施設	研修予定会場
8月21日(日)	高知県（愛媛県・徳島県・香川県）	高知大学医学部附属病院	オンライン
9月11日(日)	岡山県	岡山大学病院	オンライン
9月17日(土)	鳥取県（島根県）	鳥取大学医学部附属病院	オンライン
10月16日(日)	富山県	富山県立中央病院	オンライン

### ※ご注意※

- ・本研修は、国立がん研究センター主催「情報から始まるがん相談支援（情報支援）研修」2日間の**1日目部分のみをパッケージ化した研修**です。
- ・認定がん専門相談員の更新申請（II群単位取得）をされる方は、**国立がん研究センター主催情報支援研修（2日間）の受講が必要です。**

# 都道府県別III群研修 開催回数

他都道府県からの受講生の受け入れ  
(定員に満たない場合等)を  
積極的にご検討ください。



# がん相談支援センター関連のプログラム

	プログラムカテゴリ	開催主体	
		NCC	各都道府県
研修事業	基礎教育： 基礎研修 <sup>(1)(2)(3)</sup>	○	—
	←学習の手引き（相談員テキスト）	○	—
	継続教育： 継続研修（認定取得／認定更新）	○	—
	指導者養成： 指導者研修 指導者等スキルアップ研修	○	—
	アップデート研修	2022年度開催予定なし	
	各都道府県での研修 <sup>(地域相談支援フォーラム含む)</sup>	—	○
	←講師派遣事業（～2021：QA研修 / 2022～：情報支援研修）	○	—
	←事例教材の提供（各施設への貸し出し含む）	○	—
	←研修企画コンサルテーション	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	○	—
	認定がん相談支援センター	○	—
がん相談支援センターサポート	メーリングリストの作成	○	—
	がん相談ロゴの提供	○	—
	施設別がん登録件数検索システム	○	—

# 「認定がん専門相談員」認定事業



質の高いがん相談支援を提供するには、「**信頼性の高い」「安全な」情報を見極める力、その情報を用いて患者・家族がより良い意思決定や行動をとれるよう支援する力**が必要です。

国立がん研究センターでは、**これらの力の向上につながる学習や自己研鑽を行っている相談員**を「認定がん専門相談員」として認定しています。

## 【認定相談員に求められる取り組みの一例】

### 知識・情報の アップデート

定期的な研修・学会参加の他、国立がん研究センターが提供する**Eラーニング研修を毎年受講**することが求められている。  
認定期間（3年間）中に下記**約30科目**の知識・情報の更新を行っている。

- 基礎科目：がん対策・相談支援・社会資源・臨床腫瘍学・緩和ケア・精神腫瘍学・放射線治療・薬物療法
- 実践応用科目：がん予防・がん検診・診療ガイドライン、エビデンス・支持療法・臨床試験・相談対応の質評価  
・高齢者が『がん』になること・家族が『がん』になったとき・妊孕性・AYA世代とがん・がんゲノム医療  
・ヘルスリテラシー・がん情報サービスの使い方
- 各論専門科目：肺がん・乳がん・大腸がん・胃がん・肝胆膵がん・血液がん・婦人科がん・泌尿器がん・食道がん

### 相談対応の評価・ 改善策の検討

**2022年5月現在の認定保有者数：426名**

# 「認定がん相談支援センター」認定事業



認定がん相談支援センター

質の高いがん相談支援を提供するには、「**信頼性の高い**」「**安全な**」**情報を見極める力**、**その情報を用いて患者・家族がより良い意思決定や行動をとれるよう支援する力**が必要です。

国立がん研究センターでは、**これらの力の向上につながる取り組みを確実に実施している施設**を「認定がん相談支援センター」として認定しています。

## 【認定施設に求められる取り組みの一例】

相談部門の  
マニュアル整備

相談対応の評価・  
改善策の検討

相談対応に活用す  
る情報源の評価

# 「認定がん相談支援センター」認定施設

## 2021年度申請⇒認定

加古川中央市民病院
大阪労災病院
日本赤十字社和歌山医療センター
香川大学医学部附属病院
長野市民病院
山梨県立中央病院
大阪国際がんセンター
市立豊中病院
兵庫医科大学病院

## 2020年度申請⇒認定

長野赤十字病院
兵庫県立がんセンター
四国がんセンター
北海道がんセンター
埼玉県立がんセンター
千葉県がんセンター
福井県済生会病院
福井赤十字病院
佐久医療センター
愛知県がんセンター病院
大阪医療センター
西神戸医療センター
九州がんセンター
九州病院
戸畑共立病院
済生会福岡総合病院

## 2019年度申請⇒認定

鳥取県立中央病院
----------

## 2018年度申請⇒認定

新潟県立がんセンター新潟病院
市立岸和田市民病院
神戸大学医学部附属病院



認定がん相談支援センター

2022年5月現在の  
認定施設数：29施設

# 今年度実施予定・検討中のこと

## 認定がん相談支援センター

### ●コールモニタリングの開催方法について

従来模擬相談後、自施設で実施した部門内モニタリングの内容を報告様式で提出していただいていたが

部門内モニタリングの場に遠隔参加し、その場でフィードバックする方式へ変更した

### ●ワークショップの開催について（検討中）

認定施設同士の交流の機会や質向上への取り組みの強化に向けて、日々の困りごとなどを相談し合える場を定期的を開催する



# 申請受付期間

認定がん専門相談員



2022年11月下旬～12月上旬

認定がん相談支援センター



認定がん相談支援センター

2022年4月1日～5月末日

近日受付締切

詳細は募集要項をご参照ください。

国立がん研究センター> がん対策研究所> プロジェクト> がん情報提供部

国立がん研究センター「認定がん専門相談員」および「認定がん相談支援センター」認定事業

<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/index.html>

# がん相談支援センター関連のプログラム

	プログラムカテゴリ	開催主体	
		NCC	各都道府県
研修事業	基礎教育： 基礎研修 <sup>(1)(2)(3)</sup>	○	—
	←学習の手引き（相談員テキスト）	○	—
	継続教育： 継続研修（認定取得／認定更新）	○	—
	指導者養成： 指導者研修 指導者等スキルアップ研修	○	—
	アップデート研修	2022年度開催予定なし	—
	各都道府県での研修 <sup>(地域相談支援フォーラム含む)</sup>	—	○
	←講師派遣事業（～2021：QA研修 / 2022～：情報支援研修）	○	—
	←事例教材の提供（各施設への貸し出し含む）	○	—
	←研修企画コンサルテーション	○	—
認定事業	認定がん専門相談員	○	—
	認定がん相談支援センター	○	—
がん相談支援センターサポート	メーリングリストの作成	○	—
	がん相談ロゴの提供	○	—
	施設別がん登録件数検索システム	○	—

# 拠点病院がん相談支援センターメーリングリストについて

## 【お知らせ】

MLメンバー登録申請のWEBサイト変更に向けて、  
只今準備中です。

詳細が決まりましたら、メーリングリストで改めてご案内いたします。 (変更案→)

案内が届くまでは従来通りの運用方法です。  
以下のページをご覧ください。(ID,パスワードが必要です)

がん情報サービス医療関係者向け

- > がん相談支援
- > 国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ
- > がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/kyoten\\_ml.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/kyoten_ml.html)

がん診療連携拠点病院 がん相談支援センター相談員  
都道府県がん診療連携拠点病院 がん相談支援センター相談員  
認定がん相談支援センター相談員  
変更フォーム

施設基本情報 (共通) ID:kakunin02	
パスワード	<input type="password"/> <small>確認のため、もう一度ご入力ください。</small>
施設名 (病院名、図書館名、都道府県庁名等) ※正式名称でご記入ください。 <b>必須</b>	<input type="text" value="テスト"/>
郵便番号 <b>必須</b>	<input type="text" value="1030015"/>
都道府県 <b>必須</b>	東京都 ▼
住所 <b>必須</b>	<input type="text" value="中央区日本橋箱崎町"/>
電話番号 <b>必須</b>	<input type="text" value="00"/> - <input type="text" value="0000"/> - <input type="text" value="0000"/>
内線 <b>必須</b>	<input type="text" value="なし"/>
FAX番号 <b>必須</b>	<input type="text" value="00"/> - <input type="text" value="0000"/> - <input type="text" value="0000"/>
国指定区分 <b>必須</b>	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
都道府県・地域拠点区分 <b>必須</b>	<input type="radio"/> 都道府県がん診療連携拠点病院 <input type="radio"/> 地域がん診療連携拠点病院 <input type="radio"/> その他拠点
認定がん相談支援センター認定保有状況	
認定の有無 <b>必須</b>	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
がん相談支援センター (部署名)	
がん相談支援センター名称 <b>必須</b>	<input type="text"/>

# 施設別がん登録件数検索システムとは

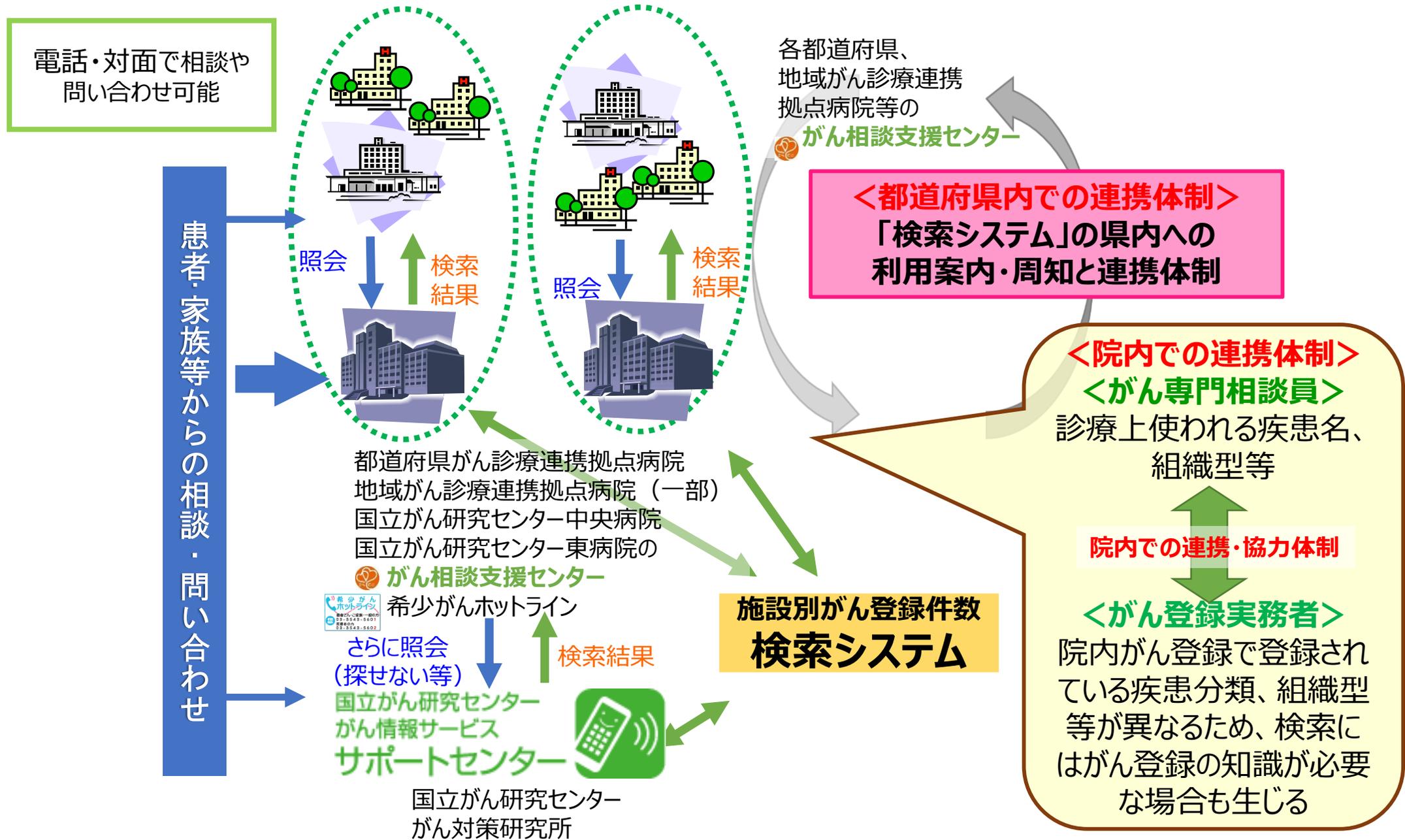
- 院内がん登録のデータを用いて、がん患者の**診療数を施設別に閲覧できる**検索システム
- 院内がん登録データを患者・家族の声に役立てるため、2014年稼働開始。  
**希少がん**の症例数を検索する目的ではあるが、5大がんなど症例の多いがんでも利用できる。
- 都道府県がん診療連携病院、一部の地域がん診療連携拠点病院内がん相談支援センターの特定のPCから、インターネット上でアクセスする

\* 検索システム導入施設は、がん情報サービス「がん種別の診療数で病院を探してもらう」に掲載中



- 2019年より第3期がん対策推進基本計画に地域がん診療連携拠点病院にも「希少がん」の項目が盛り込まれたため、導入の門戸を広げた。現在10施設導入中。コロナ情勢により導入を一時停止していたが、**2022年度より再開**する。**各都道府県内で導入を検討してもらいたい施設への案内をお願いしたい。**

# システムの運用フロー



# 「施設別がん登録件数検索システム」説明会

—希少がんにも活用できる検索システムを使いこなそう—

日時	2022年8月4日(木) 14時00分～15時30分
開催方法	オンライン (Zoom) 1台のPCから複数名の参加可
目的	「検索システム」を導入している施設の相談員等が「検索システム」の <b>利用方法</b> や <b>希少がんの検索方法のコツ</b> 、また検索結果を用いた <b>情報提供の仕方</b> について理解を深め、情報提供の一助となることを目的としている
対象	<ul style="list-style-type: none"><li>・すでに「検索システム」を導入しているがん診療連携拠点病院等のがん相談員、がん登録実務者、がん相談に関わる医師</li><li>・まだ導入していないが、<b>「検索システム」に関心がある、または導入を検討しているがん診療連携拠点病院のがん相談員等 (オブザーバー)</b></li></ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 症例検索システムの基礎知識、希少がんについて</li><li>・ 症例検索における注意とコツ、詳細検索利用におけるポイント</li><li>・ 「がんの臨床試験を探す」の使い方</li><li>・ 「症例検索システム」「がんの臨床試験を探す」を活用した相談支援</li></ul>

# その他：主催者向けzoom説明会

以下の内容で、主催者向けzoom説明会を開催する予定です。  
ご興味がありましたら、是非ご参加ください。

日時	7月頃・10月頃を予定（時間は2～3時間程度）
定員	未定（先着順、定員が少ない場合は施設毎の人数制限を行う予定）
内容	Zoomの基本的操作、主催者としての準備、 ブレイクアウトルームの操作、トラブルへの対応方法、質疑応答、など
その他	・ 研修資料等は、ご参加いただけない施設の受講生の方にもご案内できるよう準備する予定です

# 本日の内容

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

**8. その他**

・連絡事項

・オブザーバーからのコメント

9. 閉会の挨拶

※部会終了後

地域相談支援フォーラム報告会（ご参加任意）

# 連絡事項

## ■ 第19回情報提供・相談支援部会

日時：**2022年11月24日（木） 13:00~16:00**

**※開催形態について今からアンケートを行います。**

情報提供・相談支援部会事務局

- FAX : 03-3547-8577
- mail: [joho\\_sodan\\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp](mailto:joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp)

# 本日の内容

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

8. その他

- ・連絡事項

- ・オブザーバーからのコメント

**9. 閉会の挨拶**

※部会終了後

地域相談支援フォーラム報告会（ご参加任意）